



# 北日本機械株式会社

～80年間の歩み～

未来へつなぐ





## ご挨拶



北日本機械株式会社は、本年8月16日に創立80周年を迎えました。

遡ること昭和12年、当社は、岩手県のご指導により株式会社岩手鐵工所としてこの盛岡の地で創業いたしました。当初は、鉱山機械やアルコール製造プラントを製作しておりましたが、その後増資を果たし、鋳物製品や機関車製造さらには工場2棟を新設し、順調に成長したようです。戦時中は軍の管理下におかれ軍需品を製作しておりましたが、戦後は製作品の転換を図り、農機具、紡績機、鉄道車両、セメントサイロなどを手掛け、なかでも鉱山資源を運搬する鉱車分野では横開き式運搬車を発明し、JIS規格品となりました。昭和25年に、社名を北日本機械株式会社に改め、昭和27年には葛根田発電所に取水水門を納入し、東北電力様より感謝状を頂いております。これが初の水門工事となりますが、その後も多数の水門、サイロ、水圧鉄管、コンベア、橋梁などを製作し、幅広い製品を世に送り出してまいりました。

最近では、横浜市の歴史的橋梁である霞橋の架け替え工事を手掛け、平成25年度土木学会田中賞を受賞することが出来ました。

設立時からしばらくは、本社および工場は盛岡駅近傍の仙北町にありましたが、昭和52年に現在の渋民地区の盛岡工業団地に移転しております。平成26年に中部製作センターを三重県に新設し、現在は工場2拠点体制としております。

経営面では、昭和51年にJFE商事株式会社に資本参加いただき、平成16年に経営権が川鉄橋梁鉄構株式会社に、平成20年にJFEエンジニアリング株式会社に移管されております。

この80年の時を経て、当社は県内有数の鋼構造メーカーとして事業基盤を整えるに至りました。このように発展できたのは、ひとえにご発注者の皆様のご指導、ご支援の賜物であり、心より感謝申し上げる次第です。さらに、取引会社様の細部にわたるご協力なしでは成し得なかったことであり、深く御礼申し上げます。

また、創業以来、連綿と事業バトンを引き継いできた先輩社員の皆様、そして現在、復興まちづくりに奮闘してくれている現役社員の皆様に、80周年にあたり、あらためて謝意を表します。これからも社会に貢献し、皆様に信頼される会社として当社は前進してまいります。

振り返ると会社創業からの時の流れの中に、戦争、オイルショック、バブル崩壊などの激変が含まれ、その都度乗り越えてきた先人の方々の苦勞と努力に頭の下がる思いで一杯になります。

最後になりますが、当社の経営理念をここに記します。

『常に技術の向上につとめ、最良の製品を顧客に提供する』

これは設立時の社是であり、当時から全く変わることがない、社会とのつながりの中で当社の存在意義を示す基幹の考え方です。

社員の皆さんとともにあらためて心に刻みたく思います。

平成29年8月16日  
代表取締役社長 高橋 哲雄

## 経営理念

常に技術の向上に努め、  
最良の製品を顧客に提供する。

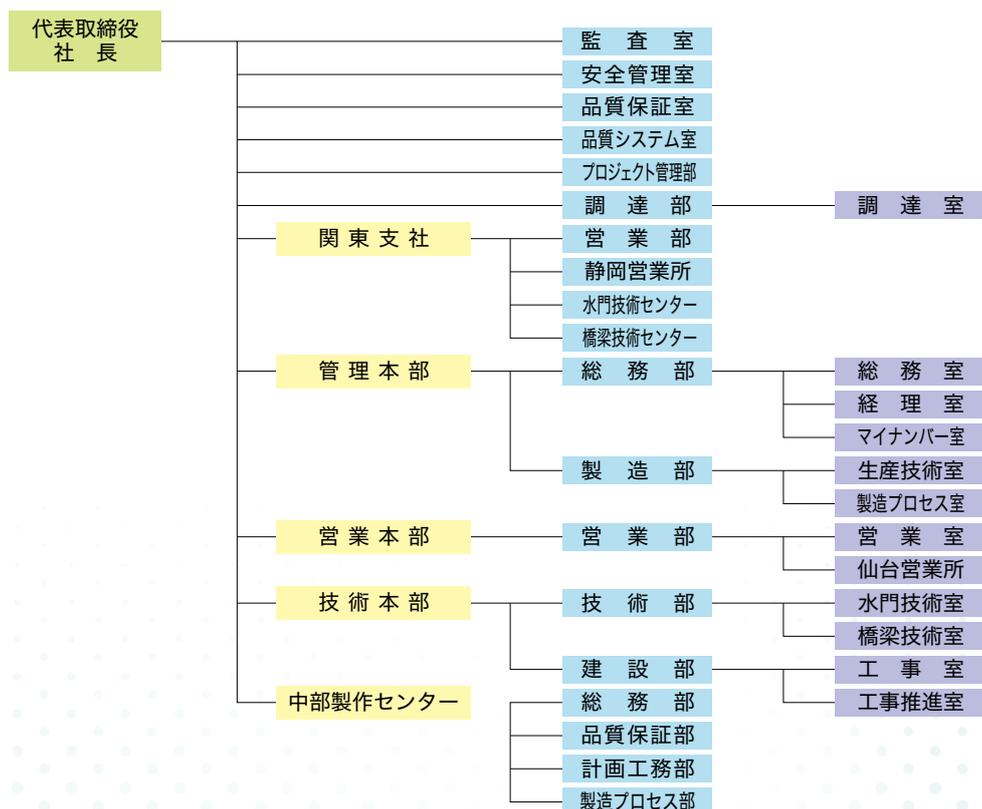


平成29年6月7日撮影 本社工場にて

# 会社概要

- 商号 / 北日本機械株式会社
- 所在地 / 本社・工場: 岩手県盛岡市渋民字狐沢70番地の1 (盛岡工業団地内)  
 TEL.019(683)1111(代) FAX.019(683)1117  
 関東支社: 横浜市鶴見区末広町二丁目1番地 (鶴見製作所1号館6階)  
 TEL.045(505)8904 FAX.045(505)8905  
 仙台営業所: 仙台市青葉区中央一丁目6番35号 (東京建物仙台ビル7階)  
 TEL.022(222)0310 FAX.022(222)0944  
 静岡営業所: 静岡県静岡市葵区瀬名三丁目14番8号  
 TEL.054(297)5401 FAX.054(297)5406  
 中部製作センター: 三重県津市雲出鋼管町52-6  
 TEL.059(238)0101 FAX.059(235)3839
- 設立 / 昭和12年8月16日
- 資本金 / 14,200万円
- 役員 / 代表取締役 高橋 哲雄  
 取締役 猪股 祥光                      取締役 七戸 弘  
 取締役 鈴木 敏夫                      取締役 米沢 直人  
 取締役(非常勤) 国立 謙治              取締役(非常勤) 三井田 洋介  
 監査役(非常勤) 原岡 恵子
- 建設業許可 / 大臣許可(特)…土木工事業・とび土工工事業・鋼構造物工事業・  
 塗装工事業・機械器具設置工事業・水道施設工事業
- 取引銀行 / 岩手銀行・商工中金・みずほ銀行
- 主たる株主 / JFEエンジニアリング株式会社
- 営業案内 / 橋梁・水門・鋼製エレメント・除塵機・水圧鉄管・各種プラント  
 その他鋼構造物設計・製作・施工・メンテナンス

# 組織図 (平成29年4月1日 現在)



1 …… ご挨拶

2 …… 経営理念

3 …… 会社概要・組織図

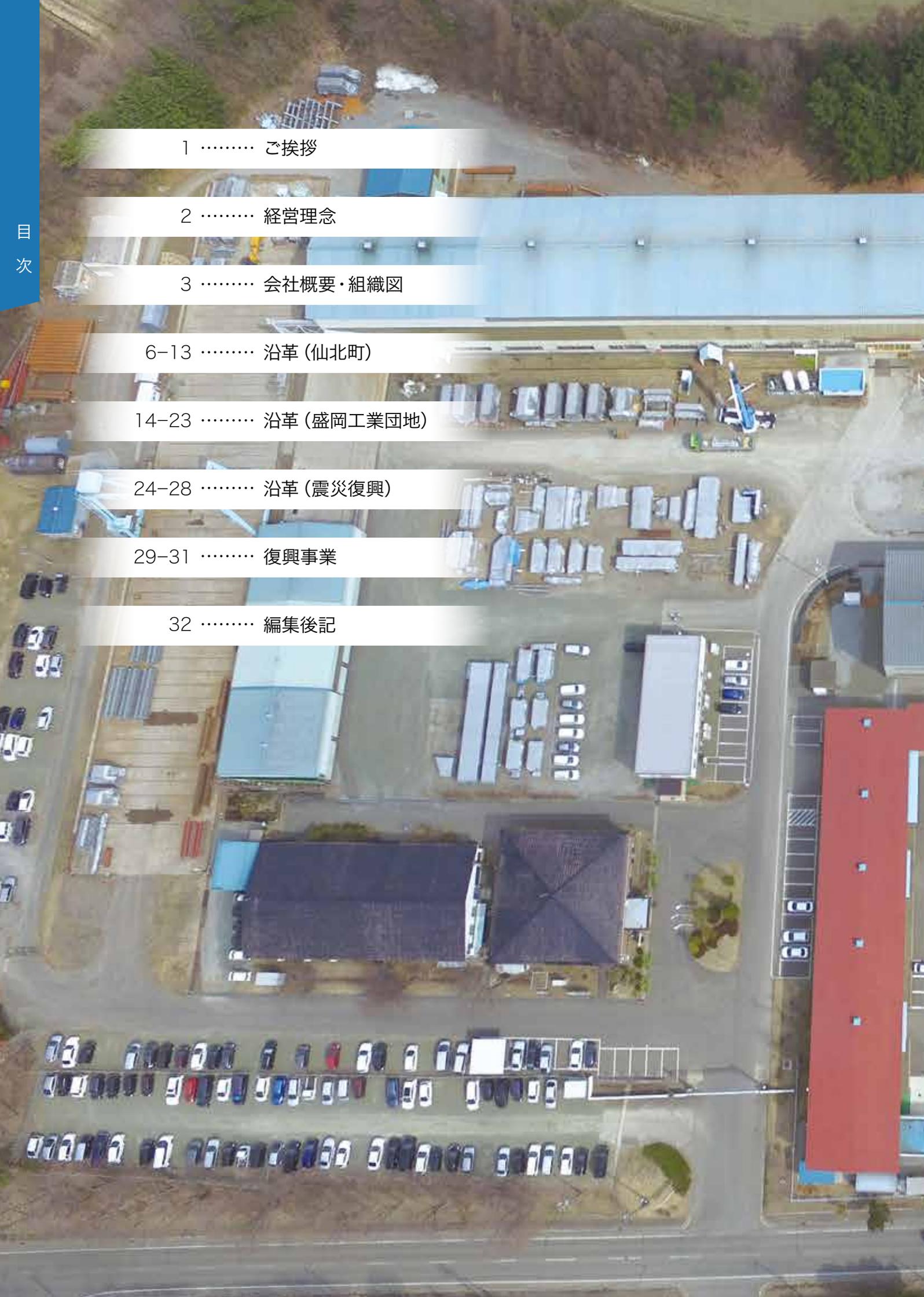
6-13 …… 沿革 (仙北町)

14-23 …… 沿革 (盛岡工業団地)

24-28 …… 沿革 (震災復興)

29-31 …… 復興事業

32 …… 編集後記





# 沿革

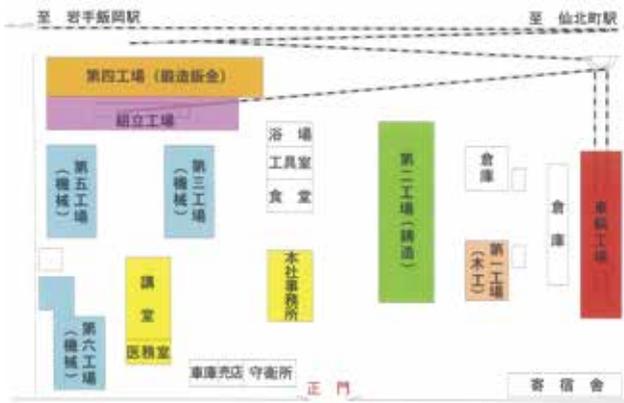


年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要生産品
昭和12年 (1937年) 8月16日	25万円	高橋 佐太郎 (初代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福田機械製作所(明治30年創立)を改組し、「株式会社 岩手鐵工所」を設立</li> <li>・岩手県(石黒知事・小山経済部長)の主唱により、高橋佐太郎氏(岩手県工業顧問・陸軍少将)、澁谷 澄氏(東北セメント(株)社長)、福田春治氏(福田機械製作所社長)の3名が主たる発起人</li> <li>・株式は県下主要会社と東北興業(株)後の東北開発(株)を加えた9社と5名の個人にて全株を引受</li> <li>・創立時の役員は、(社長)高橋佐太郎のほか4名(取締役支配人)福田祐吉、(取締役)澁谷 澄、(監査役)藤沢 進、石亀 清(ラサ工業取締役)</li> <li>・基幹工として県立大原農場研修生を日立製作所(株)に3ヶ年派遣し、終了後に9名採用</li> <li>・県内鋳業会社の鋳山機械や東和興業(株)の無水アルコール製造プラントを製作</li> </ul>
昭和13年度 (1938年)	60万円		<ul style="list-style-type: none"> <li>・資本金を60万円に増資</li> </ul>
昭和15年度 (1940年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪中央製作所を吸収合併し、鍛造部門を開設</li> </ul>
太平洋戦争 開戦			
昭和18年度 (1943年)	500万円		<ul style="list-style-type: none"> <li>・資本金を500万円に増資</li> <li>・片倉製糸盛岡工場を買収し、駒形工場を新設</li> <li>・小鷹工場を新設</li> <li>・女子挺身隊、学徒動員などを含め工場従事者は1,670人以上にのぼる</li> </ul>

住所：盛岡市仙北二丁目4番1号  
(仙北町駅前)  
敷地面積 15,205㎡

工場  
第一(木工)工場  
第二(鑄造)工場  
第三(機械)工場  
第四(鍛造・鋳金)工場  
第五(機械)工場

営業種目  
クラッシャー各種  
鋳山機械一式  
鋼桁、橋梁  
化学工業機械  
鉄槽、鉄塔  
発電所工事



工場配置図

### － 社 是 －

1. 我社は、常に技術の向上につとめ、最良の製品を顧客に提供する。
2. 我社は、常に労使協力して、株主の利益をはかり、従業員の福祉の増進に努める。
3. 我社は、常に社業を通じて、国家社会に奉仕することを念願とする。

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要生産品
昭和19年度 (1944年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・盛岡駅前平戸に平戸鑄鋼所を建設</li> <li>・本社工場・駒形工場が海軍管理工場に指定</li> <li>・小鷹工場が陸軍管理工場に指定</li> <li>・海軍省にロードローラ(6t~10t)を製作納入</li> <li>・陸軍省に20mm砲弾、手榴弾を製作納入</li> </ul>
昭和20年度 (1945年)	ポツダム宣言受諾 終戦		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<b>岩手工業株式会社</b>」に社名変更</li> <li>・製作品の転換をはかり、農器具・紡織機を製作・販売</li> </ul>
昭和21年度 (1946年)		野間 啓路 (第2代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野間 啓路 社長就任</li> <li>・小鷹工場を片倉工業(株)に賃貸</li> <li>・駒形工場を東北毛織(株)に売却</li> </ul>
昭和23年度 (1948年)		今井 省三郎 (第3代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今井 省三郎 社長就任</li> <li>・小鷹工場を売却</li> <li>・平戸鑄鋼所を売却</li> <li>・帝國車両工業(株)から技術導入、鉄道車両製作・機関車修理</li> </ul>
昭和24年度 (1949年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国金属労組の指導下で人員整理反対争議が発生</li> <li>・会社は工場閉鎖(ロックアウト)を実施</li> <li>・村上県議会議長による紛争解決あっせん</li> </ul>
昭和25年度 (1950年)	朝鮮戦争 開戦	宮脇 参三 (第4代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮脇 参三 社長就任</li> <li>・労働争議が集結</li> <li>・東北興業(株)と月島機械(株)の間で会社再建築合意</li> <li>・東北興業(株)より宮脇参三氏(元 東北興業(株)副総裁)、月島機械(株)より佐藤英二氏(元 月島機械(株)常務)がそれぞれ社長・常務に就任し再建開始</li> <li>・「<b>北日本機械株式会社</b>」に社名変更</li> <li>・建設省田瀬ダムの1,000tセメントサイロ納入</li> </ul>

**感謝状**

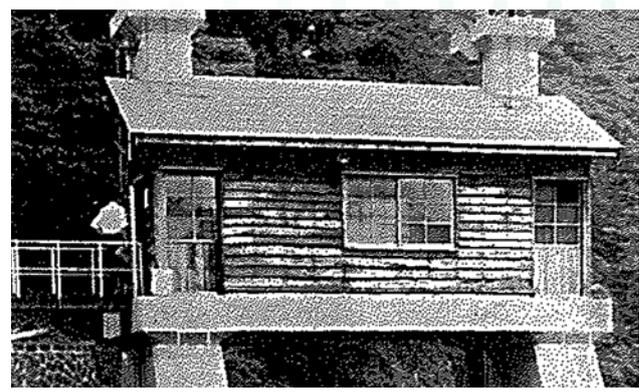
北日本機械株式会社殿

先般貴社製電機所を管内に二十所を設け  
生一之の爲発電に重大な功を奏せられた  
を察せられたるは此を幸甚と仰るに  
社に依頼致し、また此の最良なる  
内と云ふ条件も充服し、採炭費(一割)致  
協力努力を致して、本工事も推進し、特  
に完成を見よしたことは、昨今、治水  
一般常用に奇功を奏せられたるに  
大いに感服し、之を以て、先主事業本  
的並に使命に對する、赤い御魂の賜で  
あり、誠に衷心より謝意を表す

昭和二十七年十二月五日

東北電力株式会社岩手支店  
支店長 堀居左門

東北電力(株)岩手支店からの感謝状



葛根田発電所(排砂門)

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要生産品
昭和26年度 (1951年) 対日講和条約			・仙台営業所を開設し、社長は仙台に常駐
昭和27年度 (1952年)	1,000万円		・資本金を1,000万円に増資 ・東北電力(株) 葛根田発電所 取水・制水・排砂門を納入 ・東北電力(株) 岩手支店から感謝状受領
昭和28年度 (1953年)			・小坂鉱業所発電所に発電用水圧鉄管納入 ・一関駅跨線テルハー(クレーン)、100 t 給炭槽納入 ・アイオン台風の復旧工事として、国鉄山田線・閉伊川橋梁橋側歩道を製作納入
昭和29年度 (1954年)			・「鉱車 日本工業規格表示許可工場」として認定
昭和30年度 (1955年) 集団就職列車スタート		宮崎 好文 (第5代)	・宮崎 好文 社長就任(元月島機械(株)専務取締役) ・東北電力(株) 大池発電所建設に伴う、各種水門多数納入 ・キャサリン台風の復旧工事として、国鉄山田線・閉伊川橋梁橋側歩道を製作納入
昭和31年度 (1956年)	2,000万円		・資本金を2,000万円に増資(盛岡市融資参画) ・東北電力(株) 岩谷沢発電所(青森県)向けサイフォン管納入
昭和32年度 (1957年)			・日立製作所(株)と火力発電所煙風道製作の長期契約成立 ・広報もりおかに「躍進する仙北町・北日本機械」が掲載 ・建設省目屋ダム(青森県)1,000 tセメントサイロ納入 ・建設省湯田ダム(岩手県)1,000 tセメントサイロ納入

### 春の農事メモ

**〇折ちゆう苗代の紙は**  
苗が本葉二枚目が完全にでき三枚目が出始める頃(播種してから十二・三日・十五・六日)で草だけが一寸五分位になったときに外すのが最も適当です。

**〇苗代の追肥は**  
元肥のやり方によって違いますが、播種から数えて四五枚目頃に硫酸二〇・二五及位を水一斗に溶かして追肥します。それから苗取り四・五日前に硫酸を坪当たり二〇及位の割合で前と同じ様に水に溶かして追肥します。

**〇苗が三枚目の葉を出すと**  
福ハモドリバエの駆除のためB100粉剤を反当三キロを散布する。

**〇温床のこと**  
今年の温床は三月が平均に

**〇ニール折ちゆう**  
苗代は本葉二葉が出たら、苗が無駄に伸びないでかつ、つちがた丈夫な苗になるように通気に注意して本葉が五葉になったから本田に移植します。

**〇馬鈴薯のこと**  
薯は今年より芽から芽を出しませんが、霜害があるようになるときは葉が少し見える程度に掘り上げます。追肥は芽が出揃って三寸位に伸びた頃に硫酸を反当三貫目、下肥の場合には百五十貫目を十倍位に薄めます。

**〇病害虫防除**  
テントウムシダマシの防除はホルドール液一斗に対して硫酸の場合には十五及をくわえて散布します。



**〇折ちゆう苗代の紙は**  
苗が本葉二枚目が完全にでき三枚目が出始める頃(播種してから十二・三日・十五・六日)で草だけが一寸五分位になったときに外すのが最も適当です。

**躍進する 仙北町**  
**北日本機械**  
**一市でも応援**  
仙北町の北日本機械(元岩手鉄工)では四月に三十五名の増員、六百トンの水圧プレス、十ポンドインダクター、工具重油バーナーなど八百円の設備機械購入を発表し、さらに去年の六月は二万株、千円の増資という、数年

比へ気温が不順なので、ナス、トマトは葉芽を悪いように思われまますから、今後には苗をできるだけ丈夫に育てるようになり、開花、開花水の加減等来月の定植に備えての準備が大切です。

**〇馬鈴薯のこと**  
薯は今年より芽から芽を出しませんが、霜害があるようになるときは葉が少し見える程度に掘り上げます。追肥は芽が出揃って三寸位に伸びた頃に硫酸を反当三貫目、下肥の場合には百五十貫目を十倍位に薄めます。

**〇病害虫防除**  
テントウムシダマシの防除はホルドール液一斗に対して硫酸の場合には十五及をくわえて散布します。

来この辺にはきかない、暑気の話をしてもらって下さい。

人をふやすんてことば、なんでもないことば、ノドから手がでその機械さ、機械が器になり、気分が動く機械になる、やがてと買ひ入れるという、中々、小とつつかない、小企業家を多くかかえた。本町の現状からして、北日本機械のこんどの三十五名採用は、やがて天荒の部といえるようです。

☆このように再び躍進の著しい仙北町のこと、岩手鉄工も、親しまれた名手鉄工も、親しまれた名手鉄工も、戦時中の軍需関係工場としての温存期をすぎ、軍需の仕事を途絶え、人員の過剰に加え、労働姿勢の苛烈さによって、きつもの岩手鉄工もガクリついたとらわされたのが、戦後四年目ごろのこと、その後、たつてゐるのか、いづらか息づいてゐるのか、また、さしづめ、街のわらわらにも、げらないうれしさを感ずる。

それが日本経済、世界経済の好転だから、造船界の

を買収し、道路転圧機、機関車頭を製造。

学徒動員などによって千六百七百名にのぼる。

昭和二十年「岩手工業株式会社」と改め、戦後軍需工場場の閉止により工場を整理、各部門を拡充す。この後、沿革誌は五年ほどとび、昭和二十五年六月旧東武全線再開。新重役によつて会社再建をはかり、新に「月島機械株式会社」と協同、技術部門を強化し、また内部機構を刷新して今日に至る。五年の間が前記のような激動のときで、前社長藤原少将も、級職とてか、役員も、おおい、いふ心落ちつかない。この後、ついに激烈な「美化運動電燈班」からのおしらせ。

美化運動事務局では「美化運動電燈班」を編成し、映画、スライド、講演等をする事になつておりました。希望町内では、集金の日を定めて至急市民生活に連絡して下さい。

映画は、「路地の街」、「街と下水道」のはかき、新しいカラースライドを準備しております。

にして絶えまない、労働幹部(現在は整理中)のつるしあいに会社側幹部の打合せのとき泣き、おおろなすところなかつたという、会社最大の不幸を経験するうち、除々に社会も平穩、経済の回復をさせ、これと平行し会社もこれらの諸経費によつて整理組合員を断然として整理、温存補助の工員をのこすことによつて漸次、底力を蓄積していったこと、といつて、みれば、この天変地動の嵐をのりきつた努力と、工場素質の優良さ、会社幹部の頭腦の良さが去年(三十二年)の増資に地方公共団体たる盛岡市までが融資することにもなつたのでし

昭和二十五年八月「北日本機械株式会社」と改称し最新技術を取り入れ経営合理化をはかる。

昭和二十七年十二月資本金を一千円に増資。

昭和二十八年六月、水圧プレス、サンディングローラー、その他新設機械設備、資材購入、運搬費、工場修理などのため、二万株一千円を増資し、合計資本金二千円となり、合資資本五〇〇としてこの四方株(株五百円)二千円の資本金で二百名の社員が総敷地四千八百八十坪、建坪二千五百八十坪の工場をおこなう内容は、大ざつぱには、金物についてなら一応作つたり修繕したりなんでも一通りはやる、ということですがさらに分けてみますと、

①車輛、鉄石を運ぶ鉄車(特許品) 石炭の鉄車、ダンプカー(特許品) これらは全て日本標準規格品です。

②野田、住友、尾去沢など全目的の好評とことです。

③鉄山機械、東京島島機械の技術とあわせて、粉砕機、選鉱機、溜り機、ポンプ、コンベアなど。

④土木建設機械、環状石ダム建設のとき考案特許をとつて納入したセメントコンテナ(セメント袋の代用をする鉄製の釜状の器具

は数々の特許品のうちでも、とくに全国的に高く評価好評をうけ、その後、農林省(旧農興)がもつており、またこの四月から市内技能者養成の指定工場になつたことですが、これも機械工場としての優秀性を認められたこと、といふ、今後は盛岡市工業の唯一の基幹工場として確実な発展が期待されております。

下は特許出願中の鉄車

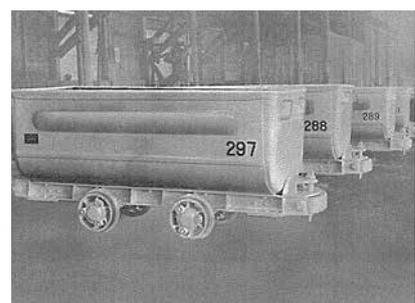
広報もりおか(昭和32年5月1日号)



グランビアー型 ダンプカー



ホキ型 石炭運搬車



規格鉱車



湯田ダム(1,000tセメントサイロ)

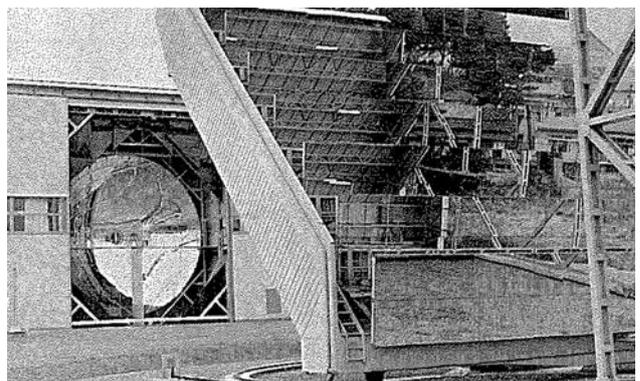


第一次設備拡充披露

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要生産品
昭和33年度 (1958年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋梁の製作を開始</li> <li>・安全委員会発足</li> <li>・建設省湯田ダム(岩手県) 1,000tセメントサイロ納入</li> </ul>
昭和34年度 (1959年)	4,300万円	森田 貫一 (第6代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森田 貫一 社長就任(東北開発(株)推薦 元海軍中將)</li> <li>・資本金を4,300万円に増資</li> <li>・東北開発(株)からの融資により、第一次設備投資実施(第一製缶工場完成)</li> <li>・建設省皆瀬ダム(秋田県) 1,000tセメントサイロ納入</li> <li>・建設省大倉ダム(宮城県) 1,000tセメントサイロ納入</li> <li>・農林省岩洞ダム 軽松沢水管橋納入</li> <li>・岩手県電力局 濁川サイフォン鉄管納入</li> <li>・岩手県衣川ダム 用土運搬ベルトコンベア納入</li> </ul>
昭和35年度 (1960年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・【設備投資】 曲口ロール機、遠心塗装装置</li> <li>・東北大学・太陽炉の設計製作据付 (本邦最大、世界2位規模)</li> <li>・東北電力(株) 蔦発電所(青森県) 取水・制水門扉・水圧鉄管納入</li> <li>・岩手県岩洞ダム県営発電所 水門納入</li> <li>・日本鋼管(株) コルゲートパイプ用ベンダー設計・製作・据付</li> </ul>
昭和36年度 (1961年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・【設備投資】 ユニオンアーク溶接機</li> <li>・チリ津波復旧 三陸沿岸高潮対策鉄扉工事開始</li> <li>・山形県営発電所 寿岡発電所 水門納入</li> <li>・東北電力(株) 小中島発電所(青森県) 水門納入</li> </ul>



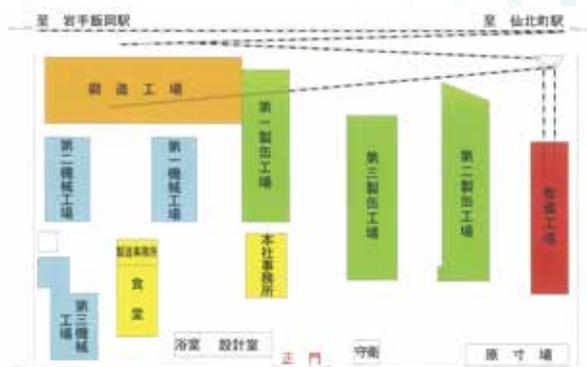
濁川サイフォン鉄管



太陽炉

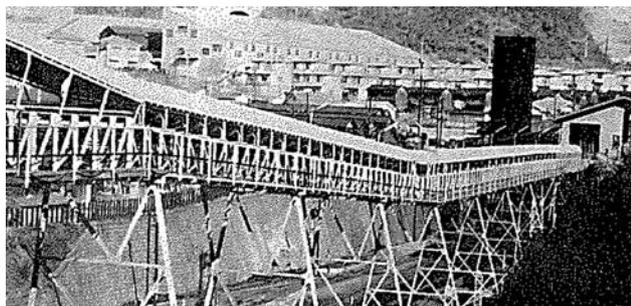


第二製缶工場完成式

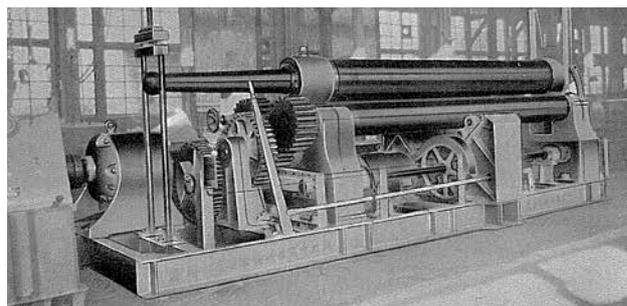


工場拡充完了後配置図

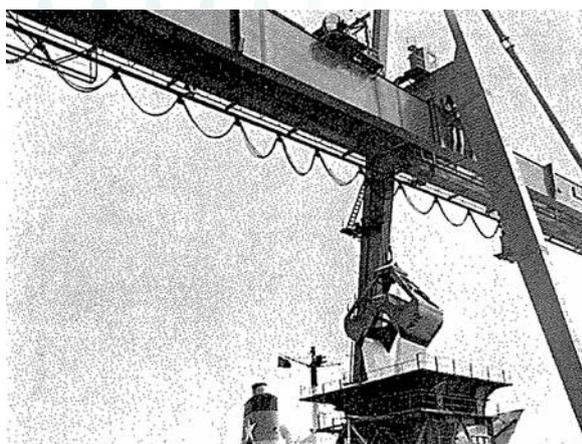
年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要生産品
昭和37年度 (1962年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立25周年記念式典(岩手県公会堂)</li> <li>・労働協約・就業規則制定</li> <li>・【設備投資】第二製缶工場完成</li> <li>・東北電力(株)新日向発電所(山形県)水圧鉄管納入</li> <li>・農林省(岩手県)猿ヶ石横断 逆サイフォン管納入</li> <li>・農林省泉田川ダム(宮城県)テンターゲート納入</li> <li>・小名浜港 荷役設備石炭用ベルトコンベア納入(日立製作所)</li> </ul>
昭和38年度 (1963年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・給与規定制定</li> <li>・【設備投資】水圧試験装置、天井走行起重機、ジョーリベッター 鋼板歪取矯正機械設備、矯正機械設備設置</li> <li>・東北電力(株)大利発電所(福島県)水圧鉄管納入</li> <li>・東北開発(株)岩手セメント工場破碎乾燥装置納入</li> <li>・東北開発(株)米沢工場 原木運搬設備・コンベア納入</li> <li>・日鉄釜石鉱業所 ベルトコンベア納入</li> <li>・東邦製菓(株)ビスケット製造装置 設計・製作納入</li> <li>・日立田浦工場 ピラミット型ベンディングロール納入</li> </ul>
昭和39年度 (1964年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北開発(株)八戸セメントサービスステーションサイロ納入</li> <li>・住友金属小倉工場テーブルローラ設計・製作納入(日立製作所)</li> </ul>
昭和40年度 (1965年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・社内報 創刊</li> <li>・監督者の方々のための企業内訓練(TWI訓練)実施</li> <li>・【設備投資】シャープガス導入</li> <li>・農林省西根堰取水塔(福島県)水門 設計・製作</li> </ul>
東京オリンピック開催			
昭和41年度 (1966年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・従業員62名による集団献血を実施</li> <li>・労働組合結成20周年記念式典</li> <li>・10月に無災害記録第5種達成(68,000時間)</li> <li>・【設備投資】ショットプラスト設備・ガス集合装置設置</li> <li>・600tジンポール(特殊クレーン)設計・製作(日立製作所)</li> <li>・建設省若林横断歩道橋(宮城県)受注</li> </ul>



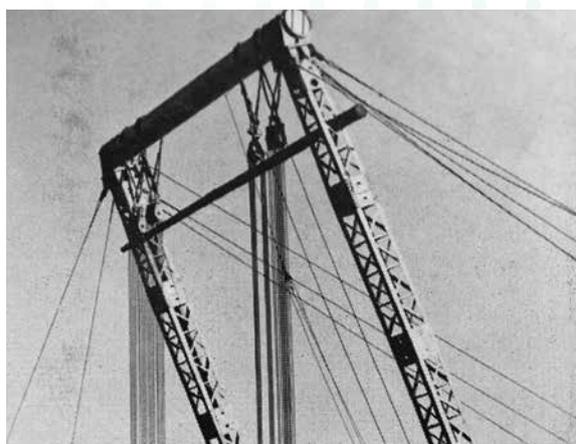
日鉄釜石鉱業所(ベルトコンベア)



ベンディングロール



アンローダー用1,000tホッパーカー

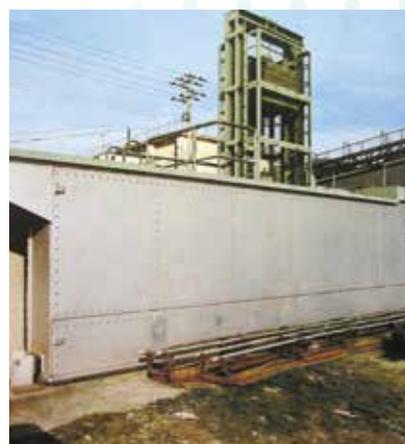


600tジブポール(特殊クレーン)

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要生産品
昭和42年度 (1967年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>社内報 「創立三十周年記念特集号」発刊</li> <li>【設備投資】 液体酸素受入設備設置</li> <li>エレクトロスラグ溶接法採用による極超厚板溶接に成功</li> <li>港湾荷役1,000tホッパーカー設計・製作(日立製作所)</li> </ul>
昭和43年度 (1968年)		富田 広四 (第7代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>富田 広四 社長就任(東北開発(株)総務部長)</li> <li>森田 貫一氏は会長に就任</li> <li>総務部内倉庫課を企画部に移籍</li> <li>製造部一課を機械課、同二課を製缶一課・製缶二課に再編</li> <li>製造部外業課を外業部外業課に編成替え</li> <li>大船渡木材港 門扉(16m×7m)設計・製作・据付</li> </ul>
昭和44年度 (1969年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>【設備投資】 中型強力旋盤、ユニオンメルト溶接機</li> <li>橋梁は昭和33年から昭和44年末で合計211橋の受注達成</li> <li>八幡(戸畑納)製鉄所向け 1,500t/hアンローダ附属設備製作納入(日立製作所)</li> </ul>
昭和45年度 (1970年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>企画部を工務部に改称し、倉庫課を総務部に移籍</li> <li>企画室、管理課を新設するなど機構改変を実施</li> <li>誤作防止審議委員会を発足</li> <li>【設備投資】 鋳物工場を第三製缶工場に改修</li> <li>東北開発(株) 破碎機乾燥装置・原料運搬ベルトコンベア納入</li> <li>十条製紙(株) 石巻工場 チップ運搬ベルトコンベア納入</li> </ul>
			大阪万博 開催
昭和46年度 (1971年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>【設備投資】 第三製缶工場クレーン走行路延長</li> <li>ホイスト2台設置、溶接機・スタッド溶接機・切断機増設</li> <li>盛岡鉄工団地共同組合設立(当社 理事長会社となる)</li> <li>東北開発(株) ベルトコンベア納入</li> <li>清水埠頭225t/hアンローダ用ホッパー、機内コンベア(日立製作所)</li> <li>旭ガラス500t/hアンローダ用ホッパー、機内コンベア(日立製作所)</li> </ul>
昭和47年度 (1972年)		福田 祐太郎 (第8代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>福田 祐太郎 社長就任 (福田機械(株)社長)</li> <li>誤作防止審議会は発展解消し品質管理委員会発足</li> <li>【設備投資】 アルミ溶接機導入</li> <li>同和鋳業(株) メジャーリングホッパー設計、製作</li> <li>国鉄盛岡管理局 水沢駅跨線テルファー製作、据付</li> </ul>
			札幌オリンピック 開催 沖縄返還



昭和48年早池峰山安全祈願



釜石アルミ合金製門扉

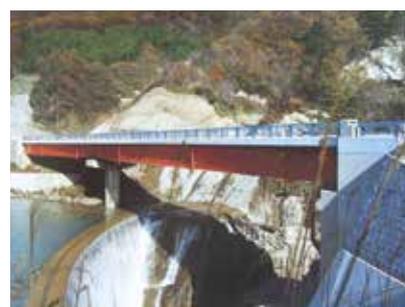
年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要生産品
昭和48年度 (1973年) 第一次オイルショック			<ul style="list-style-type: none"> <li>・機構改革により5部14課を4部7課に再編</li> <li>・オイルショックを根源とする物価狂騰の影響を受け被害甚大(発注解約続出による損失2,200万円及び原価増2,400万円)</li> <li>・安全祈願(早池峰山) 挙行</li> <li>・【設備投資】 アルミ溶接ミグ半自動溶接機、ミグ自動溶接機導入</li> <li>・岩手県の指導によりアルミ合金製門扉第1号完成(釜石港湾 アルミ合金製門扉 幅11.7m×高1.55m)</li> <li>・岩手くみあい飼料配合プラントを受注(神鋼電機)</li> </ul>
昭和49年度 (1974年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・オイルショックによる物価高騰により受注不振</li> <li>・【設備投資】 3tデリッククレーン、スタッドガン、温水ボイラ設置</li> <li>・東北地整 宮古横断歩道橋(宮古市役所前)(桁長58m 斜路65m 螺旋スロープ式)</li> <li>・岩手県 防災ダム事業 雪谷川ダム関連~2橋</li> <li>・東北開発(株) 岩手工場 ベルトコンベア納入</li> </ul>
昭和50年度 (1975年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・景気停滞し低操業に終始し、一時帰休実施</li> <li>・合理化を実施し社員数220人から150人体制に移行</li> <li>・執行体制(役員2名退任)及び組織再編</li> <li>・東北農政局 玉川頭首工(秋田県) 取水口 制水門納入</li> <li>・アルミ製ゲート製作実績増と受注大型化に対応(田老漁港・広田漁港・釜石港湾)</li> </ul>
昭和51年度 (1976年)		西村 雄三 (第9代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西村 雄三 社長就任</li> <li>・川鉄商事(株)(旧 川鉄物産) 資本参加(東北開発(株) 保有株式を買収)</li> <li>・岩手県 嶋之越水門 製作・据付 シェル構造ローラゲート第1号(幅15.0m×高1.8m)</li> <li>・岩手県 昇仙橋 設計・製作・据付(橋長73m×幅員6.5m)</li> </ul>



宮古横断歩道橋



嶋之越シェル構造ローラゲート



昇仙橋



昭和52年 盛岡鉄工団地本社・工場移転新社屋

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事
昭和52年度 (1977年)	西村 雄三 (第9代)		<ul style="list-style-type: none"> <li>盛岡鉄工団地 (現 盛岡工業団地) に本社・工場を移転</li> <li>盛岡営業所開設</li> <li>宮城県 掃出水管橋 (222t 三角トラス+ランガー)</li> <li>岩手県 瀬畑橋 (152t 鋼床版鈹桁)</li> <li>岩手県 南畑橋 (134t 4径間連続合成鈹桁)</li> </ul>
<p>盛岡鉄工団地組合 昭和46年9月 結成 昭和48年～ 団地造成 昭和52年 団地落成 本社・工場移転 団地組合員は17社</p>			
昭和53年度 (1978年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>岩手県 雫石川水管橋 (橋長439m×幅員6m 607t 連続下路トラス桁)</li> <li>二戸市 二戸大橋 (190t 単純箱桁)</li> <li>大館市 桂城公園歩道橋</li> <li>岩手県 衣川地区第2号 水門工事</li> </ul>
<p>宮城県沖地震</p>			
昭和54年度 (1979年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>岩手県 旭橋 (橋長83.7m×幅員25.5m 234t 2径間連続箱桁)</li> <li>国鉄 (盛岡工務局) 東北幹一関地区グレーチング通路製作他)</li> <li>岩手県 西山地区第64号 水門工事</li> <li>東北地整 福岡こ線橋 (岩手県) 製作工事</li> <li>東北地整 野田寺田歩道橋 (岩手県) 製作工事</li> <li>宮城県 五十五人地区 (農道整備) 1号大須切橋上部工事</li> </ul>
<p>本社工場 移転時 従業員： 総数 145名 工場： 敷地面積 50,332㎡ 建築面積 9,503㎡ 第一工場 (鉄構工場) 第二工場 (機械工場)</p>			
昭和55年度 (1980年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>盛岡市 四十四田橋 製作・架設 (橋長82.36m×幅員9m 200t 鋼床版箱桁)</li> <li>岩手県 駒木野地区第1号 スライドゲート工事</li> <li>岩手県 第2北上中部工業用水道導水管橋</li> <li>岩手県 大浦漁港海岸局部改良 (第1号) 工事</li> </ul>



雫石川水管橋



旭 橋



四十四田橋



御厩橋



平庭大橋



松館橋(リバーブリッジ)

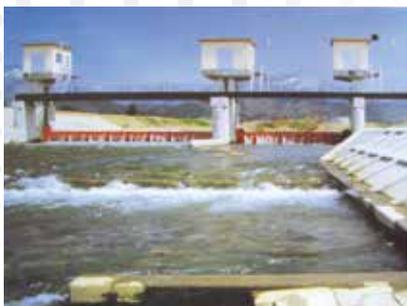
年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事
昭和56年度 (1981年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・盛岡市 御厩橋 (橋長127m×幅員9m 330t 3径間連続箱桁)</li> <li>・岩手県 長橋 (160t 単純箱桁)</li> <li>・岩手県 蓬来橋 (172t 2径間連続合成鉄桁)</li> </ul>
昭和57年度 (1982年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県 平庭大橋 (橋長108m×幅員8m 255t 2径間連続鉄桁)</li> <li>・二戸市 柿ノ木平橋 (49t 曲線鉄桁)</li> </ul>
<p>東北新幹線 大宮ー盛岡 開業</p>			
昭和58年度 (1983年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県 松館橋 (リバーブリッジ (合成床版橋) 第1号) (橋長16.7m×幅員4m 鋼コンクリート合成床版橋)</li> <li>・岩手県 入畑2号橋 (95t 梯形ラーメン橋)</li> <li>・東北農政局 葛丸1号橋 (岩手県) (40t 合成鉄桁)</li> <li>・東北地整 水沢南こ線歩道橋 (岩手県) (63t 鉄桁)</li> </ul>
昭和59年度 (1984年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北電力(株) 浅瀬石発電所 (青森県) (55t クレーン)</li> <li>・岩手県 大正橋 (234t 3径間連続鉄桁)</li> <li>・岩手県 明神地区スノーシェルター</li> <li>・早坂スノーシェッド 製作・架設 (延長75m×幅員7m)</li> <li>・川崎製鉄(株) 立体駐車場菜園新築工事 鉄骨製作</li> </ul>



早坂スノーシェッド



浅瀬石発電所 55tクレーン



丸子川頭首工



両石漁港陸閘ゲート



日向橋

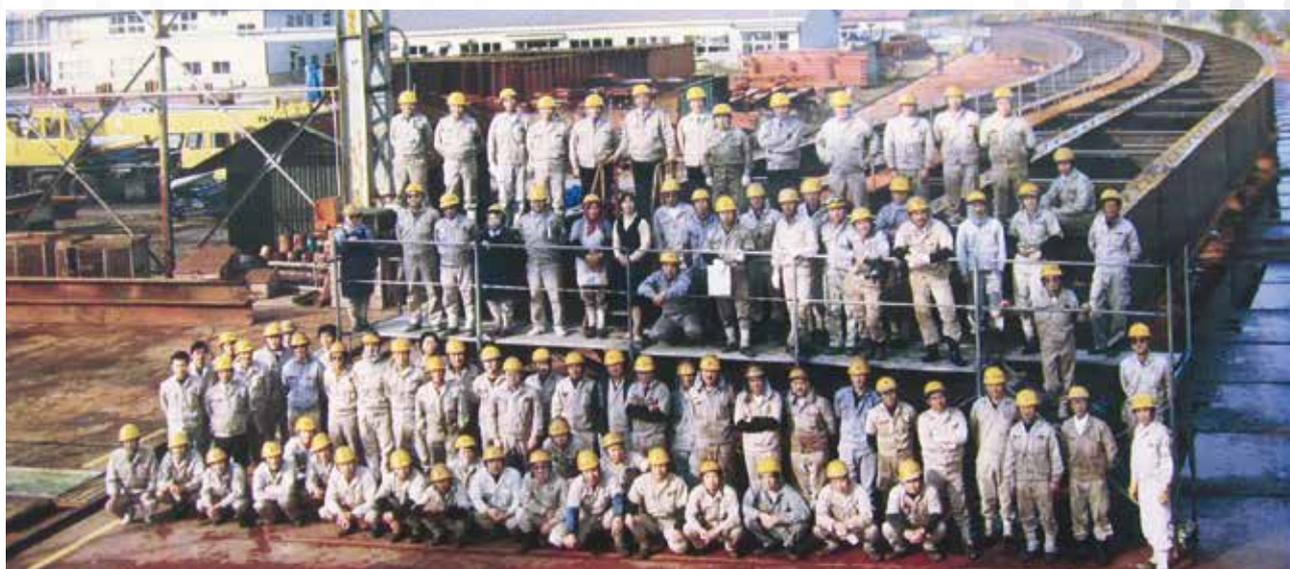
年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事
昭和60年度 (1985年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・石川建材工業(株)盛岡工場に指定(エレメント製作)</li> <li>・岩手県 深戸上の橋(148t 2径間連続鉄桁)</li> <li>・東北農政局 丸子川頭首工(秋田県) (洪水吐 幅18.25m×高1.1m シェル構造ローラゲート) (土砂吐 幅11.25m×高1.3m 桁構造ローラゲート)</li> <li>・岩手県 両石漁港陸閘ゲート (幅6m×高4.5m アルミ合金製マイタゲート)</li> </ul>
昭和61年度 (1986年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮田 光寿 代表取締役常務 就任</li> <li>・川崎製鉄(株)東北鉄構加工センター指定</li> <li>・岩手県 日向橋 (橋長57.5m×幅員6m+2.5m 122t 梯形ラーメン橋)</li> <li>・雫石町 石仏橋(169t 3径間連続鉄桁)</li> </ul>
昭和62年度 (1987年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・【設備投資】 プラノミラー導入</li> <li>・岩手県 水海水門 (幅13.75m×高3.8m シェル構造ローラゲート~2門)</li> <li>・岩手中部広域水道企業団 夏油川水管橋 (橋長187m×3.5m 170t 3径間パイプランガー)</li> <li>・川崎製鉄(株)新百合ヶ丘38街区鉄骨工事</li> </ul>
国鉄分割民営化			



水海水門

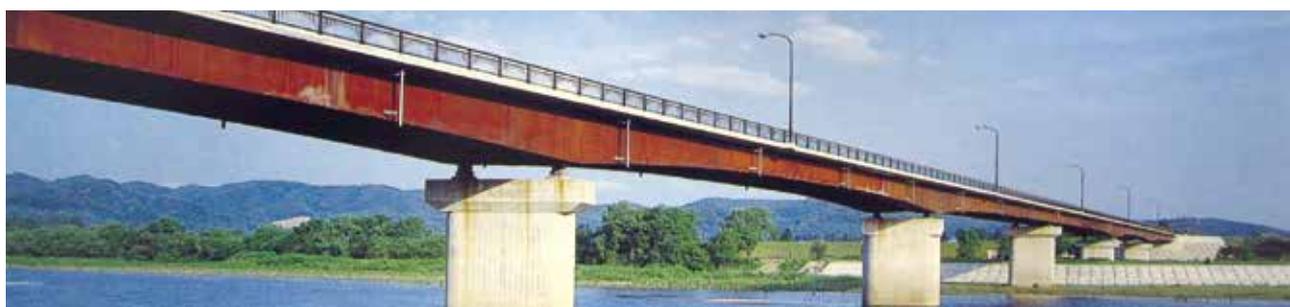


夏油川水管橋

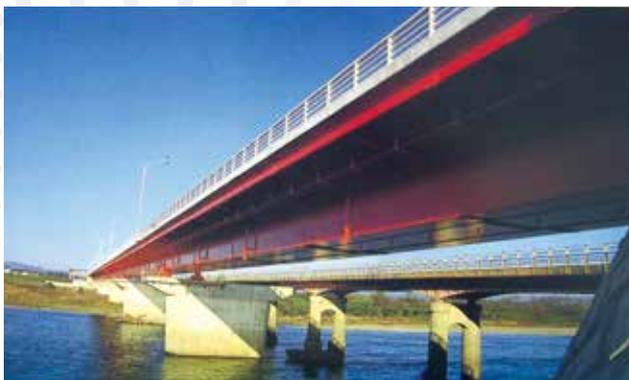


落合6号橋 工場仮組完了後

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事
平成元年度 (1989年)		山口 省三 (第10代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>山口 省三 社長就任 (川鉄商事(株))</li> <li>岩手県 入畑ダム繫船設備</li> <li>東北電力(株) 蕨発電所(青森県) 取水口制水門取替工事</li> <li>川崎製鉄(株) 富士通岩手工場建設工事</li> </ul>
平成2年度 (1990年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>【設備投資】 第二工場(旧機械工場) 増築(1,217㎡)</li> <li>岩手県 落合6号橋(橋長104m 187t 3径間連続鉄桁) 仮組立</li> </ul>
平成3年度 (1991年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>JESエレメントの製作、本格開始</li> <li>岩手県 花巻南大橋 (橋長 409.6m×幅員 6.5m+1.5m 施工橋長33m)</li> <li>岩手県 盛岡環状線分れ橋(360t 3径間連続鉄桁)</li> <li>岩手県 種市漁港陸閘ゲート(幅10m×高4.5m横引ゲート)</li> </ul>
平成4年度 (1992年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>【設備投資】 NC切断機 導入</li> <li>岩手県 和賀岳橋(110t 曲線鉄桁)</li> <li>東北電力(株) 鶴沼川発電所ダム(福島県) ゲート巻上機取替</li> <li>川崎製鉄(株) 都立荏原病院鉄骨製作(260t)</li> </ul>
平成5年度 (1993年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>定年60歳に関する協定</li> <li>旅費規程 改定</li> <li>岩手県 鷹生ダム2号橋(83t 2径間連続曲線鉄桁)</li> <li>岩手県 種市魚港門扉(10m×4.5m アルミ製横引きゲート)</li> <li>岩手県 和賀仙人スノーシェルター(127t)</li> <li>石川島建材(株) 平泉前沢地区エレメント製作</li> </ul>



花巻南大橋



桜木橋



平成7年 社員旅行

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事
平成6年度 (1994年) 阪神・淡路大震災 地下鉄サリン事件		矢野 勝彦 (第11代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・矢野 勝彦 社長就任 (川鉄商事 (株))</li> <li>・育児休業規程制定、賃金の銀行振込に関する協定</li> <li>・通勤途上災害特別補償規定 制定</li> <li>・岩手県 桜木橋 (橋長416.1m×幅員7.25m+2.5m 279t 箱桁)</li> <li>・岩手県 川井大橋 (156t 3径間連続鈹桁)</li> <li>・岩手県 山伏橋 (157t 2径間連続鈹桁)</li> <li>・メトロポリタン盛岡 ニューウイング 鉄骨製作 (全量 450t SRC造)</li> </ul>
平成7年度 (1995年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京営業所 開設</li> <li>・【設備投資】 第一工場 (旧鉄構工場) 増築 (725㎡)</li> <li>・社員旅行 (福島飯坂温泉)</li> <li>・岩手県 鹿合橋 (橋長190.2m×幅員7.5m+2.5m 122t 3径間連続鈹桁)</li> <li>・岩手県 珊瑚橋 (104t 2径間連続鈹桁)</li> <li>・岩手県 新老松橋 (93t 3径間連続鈹桁)</li> <li>・岩手県 諏訪下地区陸閘 (幅10m×高4.65m アルミ製横引ゲート)</li> <li>・三陸町 野野前漁港陸閘 (幅4m×高3.1m アルミ製横引ゲート)</li> <li>・日本道路公団 秋田自動車道 白土沢スノーシェルター</li> </ul>
平成8年度 秋田新幹線 開業			<ul style="list-style-type: none"> <li>・盛岡市 盛南大橋 (橋長429m×幅員7.25m+3.5m 173t 単純鈹桁)</li> <li>・盛岡市 三馬橋 (橋長83m×幅員7m 213t 2径間連続鈹桁)</li> <li>・岩手県 下斗米1号橋 (135t 3径間連続鈹桁)</li> <li>・岩手県 東磐井地区橋梁 (212t 4径間連続鈹桁)</li> <li>・岩手県 大浦漁港陸閘 (幅10m×高5m アルミ製横引ゲート)</li> </ul>



白土沢スノーシェルター



鹿合橋



深沢除塵機



盛南大橋



三馬橋

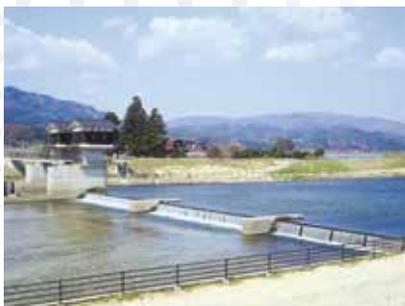


岩手県立美術館

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事
平成9年度 (1997年) 長野オリンピック 開催			<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森県 深沢排水機場除塵機 (ロータリーレーキ式) (幅3.3m×高4.6m~2基 幅1.8m×高4.6m~1基)</li> <li>・岩手県 大船渡港清水地区1号水門・陸閘ゲート (アルミ製) (幅5.3m×高1.9mローラゲート 幅4m×高2.5m横引ゲート)</li> <li>・東北地整 田面 (岩手県) 排水樋門 (ローラゲート)</li> </ul>
平成10年度 (1998年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立60周年記念旅行 (スバリゾートハワイアンズ)</li> <li>・岩手県 鷹生ダム6号橋 (109t 2径間連続鉄桁)</li> <li>・岩手県 茶屋前地区水門 (幅8.5m×高1.5m アルミ製ローラゲート)</li> <li>・盛岡市立病院 鉄骨製作 (1/3 260t SRC造)</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・【設備投資】 社内ネットワーク運用開始</li> <li>・独身寮規定 制定</li> <li>・岩手県 葛根田橋 (342t 2径間連続鉄桁)</li> <li>・日本道路公団 山形自動車道 広野橋 (220t)</li> <li>・岩手県立美術館 鉄骨製作 (全量 450t S+SRC造)</li> </ul>



平成9年 創立60周年記念旅行



角鼻頭首工



北上川繫船設備



大槌漁港陸閘ゲート(電動式)

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事
平成11年度 (1999年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森営業所開設</li> <li>・ISO9001認証取得：鋼製橋梁</li> <li>・介護休業規程制定</li> <li>・【設備投資】女子休憩室 新設</li> <li>・角鼻頭首工(岩手県) (土砂吐 幅10.5m×高2.3m シェル構造ローラゲート) (洪水吐 幅25.5m×高1.6m 桁構造転倒ゲート～3門)</li> <li>・盛岡競馬場 鉄骨製作(1/3 400t S+SRC造)</li> </ul>
平成12年度 (2000年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ISO9001拡大：水門及び除塵機</li> <li>・岩手県 中谷起1号橋 (橋長97m×幅員13m 238t 3径間連続鋼桁)</li> <li>・国交省 北上川繫船設備 (インクライン設備電動ワイヤーロープ式)</li> </ul>
平成13年度 (2001年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県 大槌漁港陸閘 (幅16m×高4.6m アルミ横引ゲート)</li> <li>・岩手県 大船渡漁港陸閘 (幅10m×高1.7m他 アルミ製横引ゲート)</li> <li>・岩手県 音部漁港陸閘 (幅7.4m×高4.2m他 アルミ製横引ゲート)</li> </ul>
平成15年度 (2003年)		橋本 正治 (第12代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋本 正治 社長就任 (川崎製鉄(株))</li> <li>・ISO9001拡大：鋼製エレメント</li> <li>・五所川原取水ゲート「東北地整 建設技術提案(3D)表彰」受賞</li> <li>・岩手県 東大橋(260t 10径間連続鋼桁 JV)</li> <li>・岩手県 江釣子地区除塵機 (水路断面幅2m×3.5m 縦型ネット式除塵機)</li> </ul>
平成16年度 (2004年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・JFE商事(株)から川鉄橋梁鉄構(株)に経営権移管</li> <li>・東京営業所廃止</li> <li>・湯田ダム低周波対策「東北地整 建設技術提案(3D)表彰」受賞</li> </ul>



江釣子地区除塵機



下荒川水門



静岡空港侵入灯橋梁



相内地区ゴム引布製起伏堰



洞ノ口こ線橋



境橋(リバーブリッジ)

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事
平成18年度 (2006年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県 新止滝橋 (260t 単純合成箱桁 JV)</li> <li>・静岡県 静岡空港侵入灯橋梁 (橋長267.7m×通路幅員1.5m 485t 2径間連続パイプトラス)</li> <li>・岩手県 下荒川水門 (幅17.1m×高3.6m シェル構造ローラゲート)</li> <li>・岩手県 本町堰 (東山町) (幅15.1m×高1.7m 鋼製起伏ゲート)</li> </ul>
平成19年度 (2007年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・再雇用制度規程制定、定年後の再雇用を制度化</li> <li>・岩手県 十二木橋 (279t 3径間連続鋼桁)</li> <li>・青森県 相内地区ゴム引布製起伏堰 (川床幅4.5m×堰高1.5m 法勾配 1:20)</li> <li>・岩手県 弘川地区水門 (幅2.2m×高2.2m 鋼製ローラゲート)</li> </ul>
平成20年度 (2008年)	14,200万円		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「北日本機械(株) 創立70周年記念パーティー」開催</li> <li>・【設備投資】 NC孔明け機 導入</li> <li>・宮城県 洞ノ口こ線橋 (橋長312m×幅員10.8m 561t 9径間連続鋼桁)</li> <li>・東北地整 駒込川橋 (青森県) (446t 2径間連続鋼桁)</li> <li>・東北地整 平泉北こ線橋 (岩手県) (343t 3径間連続鋼桁)</li> </ul>



砂原水門



曾波神大橋



平成19年 創立70周年記念



大谷こ線橋



大石橋

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事
平成21年度 (2009年)		尾栢 茂 (第13代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尾栢 茂 社長就任 (JFE工建(株))</li> <li>・第55回全国溶接競技会 被覆アーク溶接の部 畑山浩司氏 優秀賞(第4位)受賞</li> <li>・宮城県 大谷こ線橋 (橋長207m×幅員10.75m 313t 5径間連続合成少数鉄桁)</li> <li>・岩手県 築川ダム5号橋(325t 3径間連続少数鉄桁)</li> <li>・東北地整 森吉山ダム仮排水路 (幅8m×高9m 鋼製スライドゲート)</li> </ul>
平成22年度 (2010年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・関東営業所開設</li> <li>・森吉山ダム閉塞ゲート「東北地整局長 優良工事表彰」受賞</li> <li>・鶉住居第1高架橋「東北地整 事務所長 優良工事表彰」受賞</li> <li>・八反田橋「東北地整 事務所長 優良工事表彰」受賞</li> <li>・築川ダム5号橋「岩手県 優良県営建設工事表彰」受賞</li> <li>・岩手県 大石橋 (橋長70m×幅員10.7m 366t 単純細幅箱桁)</li> <li>・宮城県 丸森内川橋(316t 3径間連続鉄桁)</li> </ul>
平成23年度 (2011年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県 上根子橋 (橋長165.2m×幅員12m 401t 4径間連続鉄桁)</li> <li>・山形県 大針1号橋 (449t 単純箱桁)</li> <li>・東京都 小石川橋 (134t リバーブリッジ)</li> <li>・横浜市 江ヶ崎こ線橋 (橋長77.8m×幅員17.8m 486t リバーブリッジ)</li> <li>・横浜市 鶴見駅西口第二自転車駐車場 (橋長55.8m×幅24.6m 384t 立体ラーメン鋼床版鉄桁)</li> </ul>



鶴見駅西口第二自転車駐車場



江ヶ崎こ線橋(リバーブリッジ)



釜石地区 鶺住居（東日本大震災 被災状況）



釜石地区 小白浜（東日本大震災 被災状況）

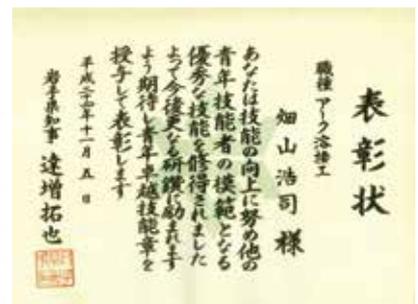
年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事												
平成23年度 (2011年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災津波により岩手県沿岸の水門・陸閘は壊滅</li> <li>・緊急点検を実施し水門ほかの開閉操作応急工事を同時実施</li> <li>・各方面からの開閉操作依頼があり、即時対応体制を敷く</li> </ul>												
3.11 東日本大震災津波															
		<p><b>東日本大震災の緊急対応</b></p> <p>岩手県庁より緊急点検要請あり、直ちに県内沿岸各地の水門・陸閘の被災状況点検、応急工事に取りかかる。</p> <table border="1"> <tr> <td>河川課管轄</td> <td>113人</td> </tr> <tr> <td>水産部管轄</td> <td>90人</td> </tr> <tr> <td>久慈管内水門応急工事</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>宮古・岩泉水門応急工事</td> <td>52人</td> </tr> <tr> <td>釜石管内水門応急工事</td> <td>62人</td> </tr> <tr> <td>延べ人数</td> <td>342人</td> </tr> </table>	河川課管轄	113人	水産部管轄	90人	久慈管内水門応急工事	25人	宮古・岩泉水門応急工事	52人	釜石管内水門応急工事	62人	延べ人数	342人	
河川課管轄	113人														
水産部管轄	90人														
久慈管内水門応急工事	25人														
宮古・岩泉水門応急工事	52人														
釜石管内水門応急工事	62人														
延べ人数	342人														
平成24年度 (2012年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業規則変更（就業時間8時間 年間休日125日）</li> <li>・宮城県 中野地区橋梁復旧工事 「東北地整 事務所長 優良工事表彰」受賞</li> <li>・上根子橋上部工 「岩手県優良県営建設工事表彰」受賞</li> <li>・畑山浩司氏「岩手県青年卓越技能者表彰」受賞</li> <li>・岩手県 和井内2号橋(260t 2径間連続鋼桁橋)受注</li> <li>・東北地整 宇津目こ道橋(岩手県)(177t インテグラルアバット橋)</li> <li>・リバーブリッジ(合成床版橋)受注が活発化</li> <li>・千葉県 岩瀬橋架替工事 106t(戸田建設(株))</li> <li>・神奈川県 勝田橋 232t(宇野ブリッジ(株))</li> <li>・さいたま市 鴻沼橋 116t</li> </ul>												



上根子橋



上根子橋表彰状



岩手県青年卓越技能者表彰状

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事
平成25年度 (2013年)		小泉 幹男 (第14代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小泉 幹男 社長就任 (JFEエンジニアリング (株))</li> <li>・震災復興工事 (特に水門、陸閘) に対応した経営改革に着手</li> <li>・(株) 小山田工業所より本社隣接の土地 (12,300㎡) ・建物購入</li> <li>・【設備投資】 購入建物を第三工場に改造</li> <li>・【設備投資】 天井クレーン、ラフタークレーン60t 増強</li> <li>・【設備投資】 レーザー切断機 (6kw) 新設</li> <li>・国交省 北上川流域一斉清掃 (四十四田ダム)</li> <li>・岩手県 「道路ふれあい月間」 道路清掃活動実施</li> </ul>

**復興工事に伴う経営改革**

- ① 生産能力増強
  - ・本社隣接土地建物 購入 (株) 小山田工業所 所有
  - ・積極的な設備投資
  - ・新卒生産社員の積極採用
  - ・65歳以上雇用延長
- ② 関東営業所を支社に再編
  - ・技術センターを組織化
- ③ 現場監督技術者の採用

**本社工場 拡張**

従業員:  
総数 106名 → 159名

工場:  
敷地面積 65,021㎡  
建築面積 11,928㎡

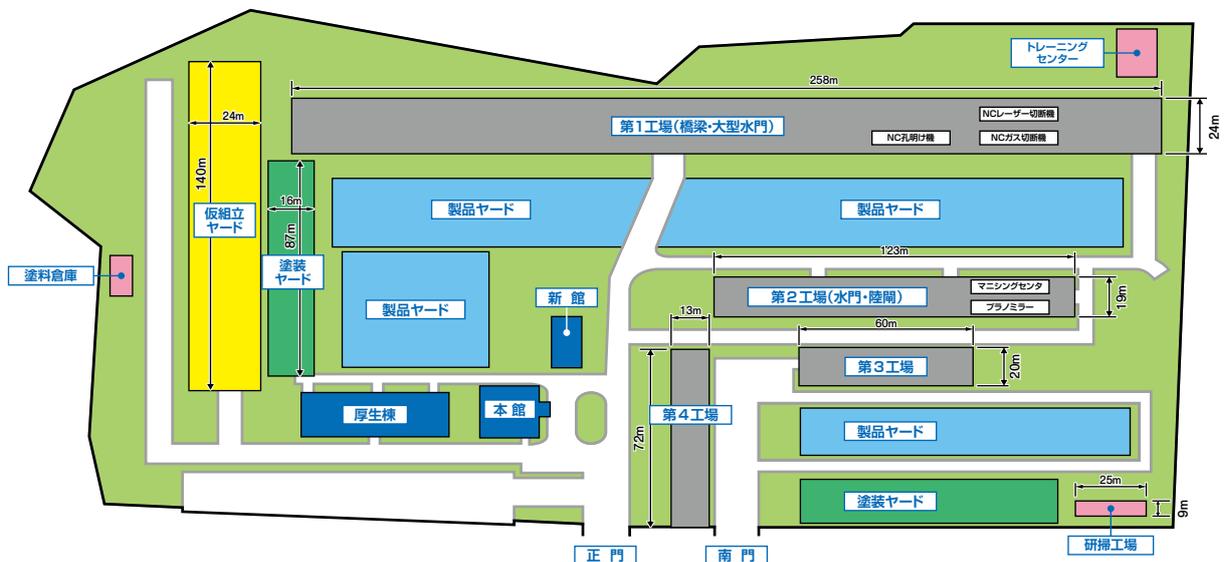
第一工場 (橋梁・水門工場)  
第二工場 (水門・陸閘工場)  
第三工場 (鉄構工場)  
第四工場 (アルミ切断工場)



北上川流域一斉清掃 (四十四田ダム)



拡張した北日本機械(株)全景



平成25年 配置図

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事
平成25年度 (2013年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・横浜市 「霞橋」が「土木学会 田中賞 (作品部門)」受賞 (橋長32.96m×幅員7m 138t 単純プラットトラス (鋼床版))</li> <li>・横浜市 井土ヶ谷橋 (リバーブリッジ) (橋長23.59m×幅員16.4m 104t 合成床版橋)</li> <li>・東北地整 佐糠橋 (福島県) (103t 3径間連続鈹桁)</li> <li>・岩手県 築川ダム13号橋 (165t 3径間連続鈹桁)</li> <li>・津波震災後 岩手県大型水門設備工事発注の受注34億円達成</li> <li>・野田水門・陸閘工事受注</li> <li>・高田地区水門工事受注</li> <li>・田代川水門工事受注</li> <li>・大船渡港茶屋前地区陸閘工事受注</li> <li>・越喜来地区水門工事受注</li> <li>・長部川水門工事受注</li> <li>・久慈港諏訪下地区陸閘工事受注</li> </ul>



平成25年 横浜市「霞橋」

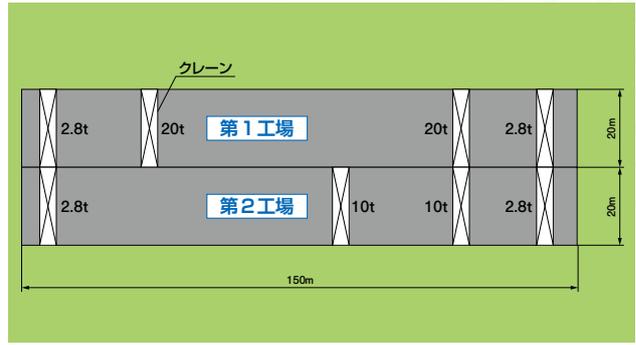
### 姿と名を変えて1世紀余、「霞橋」が田中賞を受賞

霞橋は、横浜市が作品部門「改築」分野での受賞。元々は1896年 (明治29年) に英国で製作され、1929年 (昭和4年) に「江ヶ崎こ線橋」として移設、09年度に撤去されたのが横浜市の歴史的な土木構造物として、霞橋架け替えへの利用を実現した。





中部製作センター



中部製作センター 工場配置図



本社 新館(製造事務所)新設



北日本機械株式会社 受注達成記念パーティー

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事
----	-----	------	-------------

平成26年度  
(2014年)

中部製作センター

住所：  
三重県津市雲出鋼管町52-6  
従業員：  
総数 約50名

工場：  
敷地面積 21,000㎡  
建築面積 6,700㎡  
第一工場(鉄構工場)  
第二工場(鉄構工場)

- ・「北日本機械(株)受注50億円達成記念パーティー」開催
- ・中部製作センター(三重県津市)開設
- ・【設備投資】本社 新館(製造事務所)(総床面積 437㎡)新設
- ・【設備投資】研掃・塗装工場 新設
- ・【設備投資】アルミ板切断機 新設
- ・3拠点で「WebExオンライン会議システム」運用開始
- ・就業規則改定 (年次有給休暇を入社初年度から20日付与)
- ・第60回全国溶接競技会 被覆アーク溶接の部  
竹田允人氏 優秀賞(第9位)受賞
- ・盛岡市長より献血事業への貢献を評価され感謝状を受領
- ・佐々木敬七氏「盛岡商工会議所 優良商工従業員表彰」受賞
- ・久田前田中線橋梁(リバーブリッジ)  
(橋長58.2m×幅員14.8m 305t 2径間連続合成床版橋)
- ・東北地整 定内橋(岩手県)(143t 単純鉸桁橋)
- ・石川県 小橋水門(幅33m×高3.9m 鋼製起伏ゲート~2門)
- ・岩手県 復興水門設備工事受注 31億円達成
- ・小白浜水門工事受注
- ・大船渡港清水地区陸開工事受注
- ・八木地区陸開工事受注
- ・大船渡港永浜・山口地区陸開工事受注
- ・小袖漁港水門・陸開工事受注 ほか



野田地区1号陸門



佐々木氏 優良商工従業員表彰式



小橋水門



柘沢橋(リバーブリッジ)



北部環状線1号橋



2016年 全社安全大会

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事
平成27年度 (2015年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・静岡営業所 開設</li> <li>・霞橋が「横浜市 横浜・人・まち・デザイン賞」受賞</li> <li>・国交省 建設技術公開 「EE東北'15」に出席 出展：水性塗膜剥離剤 「EPP工法」</li> <li>・【設備投資】 製品ヤード整備</li> <li>・盛岡市 柘沢橋(リバーブリッジ) (橋長57.3m×幅員9.5m 170t 合成床版橋)</li> <li>・岩手県 新町橋工事受注(342t 単純鉸桁橋)</li> <li>・岩手県復興水門設備工事 土木工事遅れにより発注減 受注額19億円</li> <li>・太田名部地区水門・陸閘(幅6m×高4.5m アルミ製マイタゲート)</li> <li>・田老第二陸閘工事受注・織笠川水門工事受注</li> <li>・大沢川水門工事受注 ほか</li> </ul>
平成28年度 (2016年)		<p>社員の善意を倍にする 社会貢献の形 「マッチングギフト」</p> <p>企業や団体などが社会貢献を目的として寄附や義援金を募る際、寄せられた金額に対して企業側が一定比率の額を上乗せし、寄附金額を増やした上で寄附する上乗せ贈与制度のことです。 今回は会社として同額を上乗せした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風10号の甚大な被害に対し、社員に募金を募りマッチングギフト制度を活用して岩泉町役場に「災害見舞金100万円」を寄贈</li> <li>・「北日本機械(株) 労働組合結成70周年記念祝賀会」開催</li> <li>・「2016年 北日本機械(株) 全社安全大会」第1回 開催 出席：協力会社、社員 140名 講話：安全管理の基本</li> <li>・受動喫煙対策として敷地内禁煙実施(喫煙用小型ハウス1棟)</li> <li>・宮城県 スマイルサポーター認定受領</li> <li>・リバーブリッジ(合成床版橋) 累計90橋を越える(昭和58年開始以来)</li> <li>・岩手県 北部環状線1号橋 竣工(工事成績 97点) (橋長149m×幅員10~12.4m 473t 5径間連続鉸桁橋)</li> </ul>



北日本機械労働組合結成70周年記念祝賀会



岩泉町災害見舞金寄贈



碓石漁港海岸陸閉ゲート



2017年 全社安全大会

年月	資本金	歴代社長	社内の出来事と主要工事
平成28年度 (2016年)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮城県 浜市橋 (80t 2径間連続鉄桁橋 中路式)</li> <li>・岩手県 閉伊川横断橋 (JV) 受注 (1719t 3径間連続細幅箱桁橋)</li> <li>・津軽石川橋受注 (360t 5径間連続鉄桁橋)</li> <li>・大船渡市 碓石漁港海岸陸閉ゲート (幅5m×高2.18m ステンレス製浮体式起伏ゲート)</li> <li>・岩手県および宮城県復興水門設備工事 受注額 29億円達成</li> <li>・岩手県 欽ヶ崎陸閉 (その1~3) 工事 連続受注</li> <li>・岩手県 藤原地区陸閉 (その1) 工事受注</li> <li>・宮城県 石巻魚町陸閉 (その4) 工事受注</li> <li>・宮城県 石巻防潮堤陸閉 (その1) 工事受注</li> <li>・宮城県 石巻漁港陸閉 (その2) 工事受注 ほか</li> </ul>
	熊本地震発生 台風第10号 岩手上陸		
平成29年度 (2017年)		高橋 哲雄 (第15代)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高橋 哲雄 社長就任 (JFEエンジニアリング (株))</li> <li>・「2017年 北日本機械 (株) 全社安全大会」第2回開催 出席：協会会社、社員 146名 講話：メンタルヘルス対策</li> <li>・釜石市 平田漁港 陸閉工事受注 (幅5.0m×高4.1m 二相ステンレス製浮体式起伏ゲート)</li> <li>・JFEエンジニアリング (株) ラオス国向け リバーブリッジ製作工事受注 セタームアック橋 700t セクムカーム橋 290t</li> </ul>



※ベトナムからミャンマーを結ぶ、全長1,450kmの国際幹線道路

- 橋 長：セクムカーム橋：90m  
セタームアック橋：160m
- 鋼 重：約1,000t
- 施 工：安藤・間、JFEエンジ共同企業体
- 工 期：2016年12月～2019年6月



完成予想CG提供 (株)オリエンタルコンサルタンツグローバル

# 宮古市道北部環状線 現場見学会

宮古市立山口小学校 5年生 平成 28 年 3 月 2 日



山口から佐藤がつながるから  
便利になるね！

あむっ



山口地区橋梁  
(見学会場)

宮古市立  
山口小学校

来年度に開通  
する予定だよ！

こくっ



とみっ



みんな真剣！



とみっ



陸

復興



うにっ



みんなが書いた復興への想いはこの橋に残ります！

ドローンで  
撮影した写真

山口小学校の  
みんな、たくさんの  
メッセージを  
ありがとう！



わんこようだい

岩手県沿岸広域振興局土木部宮古土木センター

宮古市都市整備部

## 内需と向き合う

北日本機械 上

# 水門・陸閘 復興を使命に

岩手県沿岸部で壊滅的な被害を受けた水門・陸閘の復興工事が本格化し始めた。「その数は大小合わせ600門を下らない。社を挙げて復興と向き合う」。トップメーカーとして水門・陸閘の製作から据付までを手掛ける北日本機械（本社・盛岡市）の小泉幹男社長はそう力を込める。3年かけて総額10億円を投じた生産増強や施工体制の拡充も整い、現場と工場が一丸となり動き出した。



岩手県内では現在16現場を施工中



最盛期を迎えた陸前高田市の浜田川水門

## これから正念場ピーク続く

壊滅した水門・陸閘の約8割は、同社が製作据付を手掛けた。2010年にわたる岩手県沿岸部では、防潮堤構築の工事発注が先行され、水門・陸閘の工事発注は「まだ6割程度」ととまざる。2020年度までの完了が計画されているだけに「これから復興の正念場」と、小泉社長は手綱を強く握りしめる。

現場は既に大忙しだ。進行中の手持ち工事は現在16カ所にもおよぶ。「施工のピークはこれからも続く。一丸となって取り組まなければ、現場は回っていかない」と鈴木敷夫取締役管理本部長は身構える。受注した工事はいくつもの水門や陸閘をセットにしたケースが多く、施工場所も欠かせない。陸前高田市では、浜田川にかかる水門設備工事が最盛期を迎えようとしている。シェル構造のローラーゲートは長さ14・7メートル、有効高さ3メートルで8ブロックに分けて運搬し、現場で溶接作業を行う。既に1号門の据付を完了し、現在は2号門の溶接作業中だ。ここで監理技術者を務める林誠二水

門技術室室長は「構造物工事との調整が難しい」と明かす。水門を納めるコンクリート構造物は防潮堤を手掛ける施工者が工事を持つケースが多い。水門設備と構造物の納まりが工事の進捗に大きな影響を及ぼすからだ。岩手県内では各地区の水門・陸閘の復興工事が動き出しただけに、防潮堤の工事に、設計や製作のタイミングを合わせる必要がある。現在16現場を動かす同社だが、工事着手へ待機している受注案件もあり、特に現場技術者の配置は、頭を悩ます課題の一つだ。



小泉社長

「震災前は社員90人だった組織規模は技術者を中心に増員を図り、現在200人体制を確立した。これまで受注は年間20億円規模で推移してきた。しかも水門・陸閘工事は全体の2割にとどまり、8割を占める橋梁工事が事業の柱だった。変化が表れたのは14年度からだ。その割合は逆転し、受注規模は50億円にまで膨れあがった。今後2年間の発注工事は少なくとも60件程度で推移する見通し。16年度は「60億円規模まで受注を伸ばしたい」と鼻息は荒い。

水門の要求機能も震災を機に方向転換した。緊急時に開閉を遠隔操作できるよう機能が強化されたため、関連する設備工事はより複雑になった。開閉の方法もワイヤー式からチェーン式が主体となり、現場は装置メーカーとの綿密な調整も必要だ。秋からは電気工事に習熟し、年末の完成を目指す。概々だいたいのは工事現場だけではない。盛岡市内の本社敷地に併設する工場も作業に追われている。親会社のJFEエンジニアリングで構設事業部長だった小泉社長が就任したのは13年4月。水門・陸閘の復興を使命に、就任初年度から10億円規模の設備投資計画に打って出た。「実は、それでも対応が追いつかなくて感じていたが、幸いにも工事の要件が遅れたことでタイミングが整った」と振り返る。増設を決めた第3、4工場が全備稼働したのは15年8月。並行して進めてきた技術者の増員もようやく整い始めた。「これから全力で走り抜ける。復興が完了する20年までは、次のステージに向けた組織体制を構築する準備期間でもある」

# 増大する陸間需要に備え

「第3と第4工場が存  
在しなければ、生産は問  
に合わなかった」と、北  
日本機械（盛岡市）の作  
山和久営業本部副部長  
は胸をなで下ろす。本社  
敷地内に整備していた同  
工場の新機能が本格稼働  
したのは2015年8  
月。岩手県沿岸部で現在  
16現場を施工する同社に

## 内需と 向き合う

北日本機械 中

### 工場3倍に生産効率化



製作を終えた水門や陸間現場に積み上げられている。効率化が実現する。作山氏は「作業スピードは従来の3倍になった」と手応えを口にする。東北地区では、大型のアルミ陸間を製作できる工場

とって、工場の生産増強は復興支援の生命線だった。「いまは年度末の慌ただしさが一段落しているが、これからまた忙しくなる」と身構える。

水門・陸間のトップメーカーであるものの、東



製作中の高さ4.5m、幅20mの水門陸間

日本震災前までの受注量は年1、2件で推移していた。岩手県では沿岸部の復興が進み始めるにつれ、水門や陸間の工事の発注が14年度から本格的に始まった。同社の受注量も従来は橋梁を中心に20億円規模を確保していたが、一気に年50億円規模にまで膨れ上がった。現在施工中の現場は水門が中心だが、これからは陸間の発注が一気に増える。前年の本格復興もあり、道路部も急ピッチで対応することができ、第3と第4工場の増設にめどが立ち、現在は4工場体制で対応に追われている。第1工場は鋼製橋梁と大型水門を手がけ、残り3工場では陸間の製作を進める。アルミやステンレスを素材に使う陸間は工場内で切断しているが、これまで受注量が少なかったこともあり、電動の丸ノコギリを使い、手動で作業を進めていた。板厚は最大50mmにも達し、これを自動切断すれば、大幅な生産

効率化が実現する。作山氏は「作業スピードは従来の3倍になった」と手応えを口にする。東北地区では、大型のアルミ陸間を製作できる工場がほとんどなく、今後需要が高まるアルミ製への対応を強化した。既存の第1と第2工場についても生産効率アップを目的に出力6tのものから1tに切り替えやマシンセンターを新設したほか、敷地内には顧客対応や検査、マネジメントなどを行う施設も増えた。現在施工中の現場は水門が中心だが、これからは陸間の発注が一気に増える。前年の本格復興もあり、道路部も急ピッチで対応することができ、第3と第4工場の増設にめどが立ち、現在は4工場体制で対応に追われている。第1工場は鋼製橋梁と大型水門を手がけ、残り3工場では陸間の製作を進める。アルミやステンレスを素材に使う陸間は工場内で切断しているが、これまで受注量が少なかったこともあり、電動の丸ノコギリを使い、手動で作業を進めていた。板厚は最大50mmにも達し、これを自動切断すれば、大幅な生産

建設通信新聞 2016年4月20日掲載

# 持続的成長へ新たな柱

「将来への備えも並行して進める」と、北日本機械（盛岡市）の小泉幹男社長は先を見据える。岩手県内で動き出した水門・陸間の復興は20年までの完了が計画され、今後3年の間には工事の大半が発注される見通し。同社は今後の受注高が従

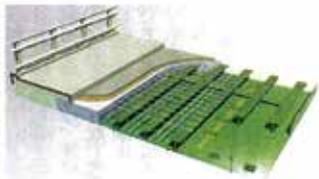
## 内需と 向き合う

北日本機械 下

### 水門、橋梁とも全国展開

同社が製作・掲げを担った水門・陸間のうち、既に工事が完成したのは高さ10m級の津波にも耐えられるという日本最大級の久慈・諏訪下陸間を含むカ所。現在16カ所では施工を担当しているように、復興完了の20年までは相次ぐ案件に携わることが予想される。鈴木敏夫取締役管理本部長は「完成後のメンテナンス対応が新たな役割として重要になる」と強調する。

「新たな柱」の構築に向け、社内を統括する七戸弘政取締役営業本部長は「壁を生かし、小橋梁の全国展開にも動くと明かす。親会社のJFEエンジニアリングが開発した鋼コンクリート合成圧版橋りばりブリッジは行動を促す。コストを最適化できることから、年10件程度の受注ペースで



長さ15-30mの小橋梁をターゲットに売り込む「リバーブリッジ」



日本最大級の久慈・諏訪下陸間

「新たな柱」の構築に向け、社内を統括する七戸弘政取締役営業本部長は「壁を生かし、小橋梁の全国展開にも動くと明かす。親会社のJFEエンジニアリングが開発した鋼コンクリート合成圧版橋りばりブリッジは行動を促す。コストを最適化できることから、年10件程度の受注ペースで

建設通信新聞 2016年4月27日掲載

## 編集後記

本年、北日本機械株式会社が創立80周年を迎えるにあたり、80年間の歴史を紐解いて、その歩みを残すためにこの記念誌を発行することとなりました。

記念誌を制作するにあたり、当時の関係者の皆さまからたくさんの資料をご提供いただき、当時のことを知ることができました。また、過去の資料に目を通すなかで、当社も創立から年を積み重ねながら少しずつ変化し、進化してきたことが感じられました。この記念誌をご覧になり、懐かしい当時を振り返ると同時に、受け継がれてきた歴史に触れていただけたら幸いです。

今回はその大切な資料などをもとに記念誌を制作いたしました。残念ながら資料が残っていない年度もありました。記述にあたっては、十分注意を払って発行したところではありますが、不十分な点やお気づきの点などあろうかと存じます。また、誠に恐縮でございますが、ご芳名、企業名や会社組織名、年代や日付等の誤りがあるかもしれません。何卒ご容赦賜りますようお願い申し上げます。

編集にご協力頂きましたすべての方々に心から御礼と感謝を申し上げます。

平成29年8月

北日本機械株式会社

創立80周年記念誌編集委員会



創立80周年記念誌  
～ 80年間の歩み～  
未来へ つなぐ

---

発行日／平成29年8月20日

編集者／北日本機械株式会社  
創立80周年記念誌編集委員会

発行者／北日本機械株式会社

制作・印刷／株式会社 光文社

